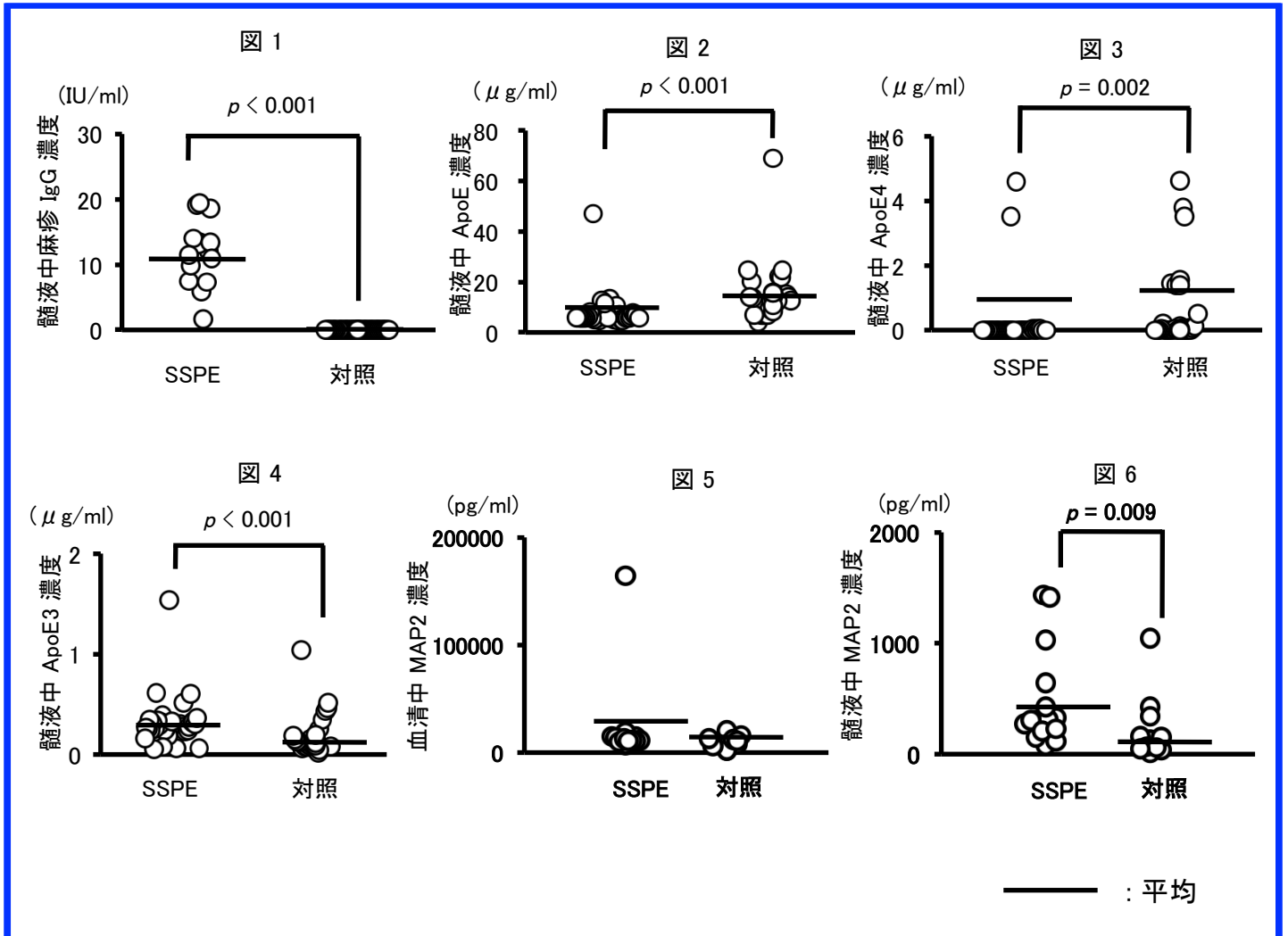


亜急性硬化性全脳炎の病態解明およびバイオマーカーの確立に関する研究

研究分担者：山口大学大学院医学系研究科小児科学分野 長谷川俊史
 研究協力者： 同 市山高志



解説

1. SSPE症例では対照群に比し、髄液麻疹IgG濃度が有意に高値であった(図1).
2. SSPE患者髄液中のApoEおよびApoE4濃度は対照群に比し低値で、ApoE3濃度は高値であり、Tau タンパク質の異常リン酸化と神経原線維濃縮体の形成を抑制することが推測され、病態への関与が示唆された(図2-4).
3. SSPE患者髄液でのみMAP2濃度の有意な上昇を認め、ニューロンの細胞体および樹状突起の変性・脱落が示唆された。(図5, 6).